

地域連携センター便り



日頃より当院を信頼し、連携していただきありがとうございます。

当院の消化器内科は平成18年4月の病院新築移転時に発足し、常に成長し続けながら最良の医療を提供しようと努力してきました。

新潟大学と富山大学の連携で内視鏡治療や化学療法、放射線療法に積極的に取り組んでいます。

救急医療は当然のこと、慢性期医療やがん終末期緩和医療も行い、患者様一人一人を考えた適切な医療を心掛けています。

早期胃がん、食道がん、大腸がんに対する内視鏡的粘膜下層切開剥離術(ESD)の普及により、外科手術に比して侵襲が少なく患者様の負担が軽くなりました。

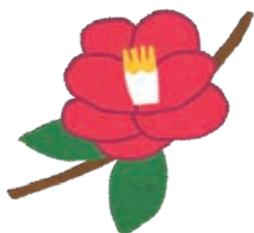
また新規抗がん剤を積極的に使用し、精度の高い放射線治療も併用し、がんとの闘いに全力を尽くしています。

経口摂取不能な患者様に対する経皮内視鏡的胃瘻造設術(PEG)のみでなく、胃全摘術後の経皮経食道的胃管挿入術(PTEG)や、神経疾患等による巨大結腸症や外傷性脊髄損傷による四肢麻痺患者さんの排便コントロールに対する経皮内視鏡的盲腸瘻造設術(PEC)も行っており、その実績と技術においては隣県を含めても当院がナンバーワンであると自負しています。

刻々と医療制度が変化していく中で、常に新しい『あさが来た』と前を向き、積極的なイノベーションでより良い病院作りを模索し、地域の皆様との連携を強固にしていくことが必要であると思います。消化器内科では、近年カプセル大腸内視鏡検査を導入し、大腸がんの早期発見に努める新たな取り組みを予定しています。

組織として、病院として、医療者として、人として一流となれるよう、理想を追いながら努力をし続け、更に信頼していただける病院に成長していきたいと考えていますので、今後とも暖かい目でご支援とご意見をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

消化器内科部長 武井 伸一



医療機関様からのご紹介・お問い合わせは

上越総合病院 地域連携センター

電話 025-524-3000 (代表)

FAX 025-524-3140 (直通) まで

内科(和漢診療)外来のご案内



藤本 誠

このたび当科外来紹介の機会をいただきましたので、ご案内させていただきます。

当科の外来診療は水曜日・金曜日の午前・午後に内科8診で行っています。富山大学附属病院和漢診療科所属の私（水曜日）と野上達也先生（金曜日）が担当しております。漢方薬（煎じ薬とエキス剤の両方があり、原則として院外処方）の内服治療が主体ですが、診断のために必要ならば検査も行い、病状によっては西洋薬の併用や専門診療科への紹介もさせていただきます。

当科で扱う疾患は多岐にわたり、1. (いわゆる不定愁訴など) 従来の西洋医学的治療に限界がある場合 2. 副作用のために西洋医学的治療を十分に受けられない場合 3. 西洋医学的治療に東洋医学の長所を加え、より一層の効果を期待する場合 4. 症状が複数の臓器や器官に渡り、愁訴が多い場合 などで受診されることが多くなっています。

日本漢方生薬製剤協会が医師を対象に実施した「漢方薬処方実態調査」によると、漢方薬を処方している医師は89%となっており、漢方治療はかなり普及しているものと思われます。術後腸閉塞の予防に大建中湯、機能性ディスペプシアに六君子湯、認知症の周辺症状（攻撃性・不穏・徘徊など）に抑肝散がしばしば処方されていることはご存知なのではないでしょうか。これらの漢方薬は現代医学的な基礎研究・臨床研究でそれら疾患への有効性の報告が特に蓄積されたもので、エビデンスに基づいた漢方薬治療と言えると思います。

当科での漢方診療における治療薬の選択の際には、エビデンスももちろん参考にいたしますが、漢方の伝統的な診察方法（舌診・脈診・腹診）を行い、中国伝統医学の古典である傷寒論・金匱要略などに記載の条文に基づいて行っています。

例えば、大建中湯に関して古典には「胸から腹にかけて非常に冷えて痛み、吐き気が強くて飲んだり食べたりできない。腹の皮が盛り上がってむくむくと動き、あたかも頭や足があるようで上下する。腹痛が激しいので触れることもできない。このような状態には大建中湯で治療する」ということが漢文で書かれています。この条文を参考にすると患者さんが「冬の寒さが堪えてすぐに腹痛になる」なら、開腹手術歴がない場合でも、私たちは大建中湯が適応になりそうだと考えます。特に臍周囲が冷えている患者は症状の内容に拘わらず大建中湯の奏効率が高く、頭痛を主訴に当科を受診された方が大建中湯で改善することなども経験します。漢方を専門にされていない先生からは「なぜ頭痛に大建中湯？」と思われるところですが、これは古典の条文の拡大解釈によるものです。

患者さんが漢方治療を希望されたら、当科での診療の適応となりますので、どうぞ遠慮なく、お気軽にご紹介ください。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

がん緩和ケアチーム (CCST) の紹介

最近「がんと診断されたときから始まる緩和ケア」という言葉も、医療者の間では広く認識されるようになってきました。また、緩和ケアについて患者さん・ご家族の方へ説明する機会も増えています。当院でも平成22年度から「がん緩和ケアチーム」を結成しました。メンバーは、医師・外来看護師・病棟看護師・訪問看護師・理学療法士・薬剤師・医療ソーシャルワーカー・事務員です。各分野の専門家が患者さんの「心のつらさ」「身体的なつらさ」「社会生活でのつらさ」「家族のつらさ」など様々なサポートに取り組んでいます。

当院は平成24年からがん診療拠点病院に準ずる病院として、多くのがん患者さんの治療を行っており、私たちCCSTはその方々への介入を行っています。実際の活動は、週1回の病棟ラウンドで対象患者さんのカンファレンスを行い、症状緩和のための治療推奨や退院後のサポートについても考え、提案を行っています。

これからも「がんで療養する患者さんにご家族を大切に思い、その人らしく暮らす・その人らしく生きていくためのあらゆることをこの医療チームで支えていく」という理念をしっかりと持ち緩和ケアを目指していきます。

CCSTリンクナース 金井 紀江

がん医療サポートチームは多職種で患者様やご家族をサポートします！



医師

主に身体的な苦痛に対する緩和を図る支援を行います



看護師長

経験・知識を有し、各メンバーにアドバイスをを行い、がん医療サポートチームを支えています



薬剤師

薬剤の情報提供や適正に使われているかチェックを行うなど、薬剤面からの支援を行います



患者様 ご家族

リンクナース

各病棟に所属する看護師で、がん医療サポートチームへの情報提供など連携して、より良いケアにあたります



医療ソーシャルワーカー

医療費・生活費、退院後の自宅療養や介護保険、福祉制度の利用方法、各施設の利用方法等について社会福祉の立場から支援をします



訪問看護師

その人らしい尊厳のある療養生活を送ることができるよう、本人や家族の思いに添って援助します

事務員

医療・福祉の専門職がそれぞれの役割を果たすことができるよう、事務管理を担い、側面からがん医療サポートチームを支援します



リハビリテーションスタッフ

マッサージなどのリラクゼーション、生活動作や作業活動などのリハビリを通して、療養生活が安楽に過ごせるよう援助します。



がん医療サポートチームのケアをご希望の際は??

現在、入院中の患者様・ご家族が対象となります。主治医または、看護師にがん医療サポートチームの支援を受けたいことをお伝え下さい。

※がん医療サポートチームにかかる費用は無料ですが、個別にリハビリテーション科スタッフの関わりを希望する場合は費用が発生致しますのでご了承下さい。

内科	呼吸器	外山 譲二	外科	乳腺外来	藤田 亘浩
	呼吸器	小原 竜軌			小出 則彦
	呼吸器	田中 知宏			宮澤 智徳
	呼吸器	月岡 啓輔	呼吸器外科		本間 崇浩
	消化器	武井 伸一			尾嶋 紀洋
	消化器	合志 聡	脳神経外科		江塚 勇
	消化器	鈴木 庸弘			荒川 泰明
	消化器	禿 晃仁		非常勤医師	亀山 茂樹
	腎・糖尿病	亀田 茂美	産婦人科		相田 浩
	腎・糖尿病	後藤 慧			廣井 威
腎・糖尿病	上野 光博			岡田 潤幸	
糖尿病内分泌	笹岡 利安			小川 裕太郎	
内科 (非常勤医師)	糖尿病内分泌	岡部 圭介	耳鼻咽喉科	非常勤医師	高倉 大匡
	血液	野村 憲一		非常勤医師	阿部 秀晴
	和漢	藤本 誠	眼科		佐藤 昭一
	和漢	野上 達也			大塚 光哉
	呼吸器	清水 夏恵		非常勤医師	三原 美晴
	総合診療科	今西 明		非常勤医師	藤田 和也
	循環器内科	総合診療科	水澤 桂	整形外科	
		籠島 充			相場 知宏
		長谷川 智也	非常勤医師		東條 猛
神経内科		田畑 裕章	非常勤医師		金森 昌彦
		福原 信義	非常勤医師		元村 拓
	非常勤医師	鈴木 隆	泌尿器科		里見 定信
	非常勤医師	春日 健作	非常勤医師		渡部 明彦
	非常勤医師	徳武 孝允	皮膚科		竹上 與志昌
	非常勤医師	小松 潤史	救急科		丸山 正則
小児科	非常勤医師	畠山 公大	麻酔科		朝日文 尚
		土谷 修一			加藤 晋
		山口 正浩			加藤 麻紀子
		熊倉 俊一	放射線治療科		江部 和勇
	非常勤医師	雅楽 川隆	病理検査科		巻 淵 隆夫
			歯科口腔外科		桑原 徹
					三浦 嘉磨

早朝検査の実施について(予約患者様のみ)

当院では、外来患者様の待ち時間を短縮する取り組みとして、検査の受付時刻を従来の8時30分より30分早めて行っております。それにより患者様にはスムーズに診察を受けて頂けると考えております。